

令和4年度介護ロボット等活用ミーティング

新型コロナウイルス罹患者の 療養生活と罹患前後の変化を 見守り機器を活用して支える

サービス付き高齢者向け住宅リハ・ハウス来夢 & ライフリズムナビ+Dr

2022. 11. 15

株式会社来夢 矢代 虎太郎

Copyright © 2020-2022 Raimu Incorporated All Rights Reserved.

はじめに

当事業所は富山県氷見市にあるサービス付き高齢者向け住宅を母体とした複合事業所を運営しています。

氷見市は高齢化率が全国平均よりもかなり高く、専門職である介護職員を採用することが困難な地域です。

将来を見据えますと少しでも働きやすい職場環境へと改善していくこと、業務効率化を行なうことで残業を削減していくこと、そして生産性を向上して経営を安定させていくことを目指しています。

そのためにはICTやIoTシステムを導入していくことが急務ではないかと考え、当事業所にて導入していく運びとなりました。

会社概要

一人ひとりの個性、あなたらしさを大切に。
安心して快適な、感動ある毎日を提供したいと願っている開設9年目の会社です。



法人名	株式会社来夢
事業所名	リハ・ハウス来夢
設立	平成26年4月
住所	富山県氷見市伊勢大町二丁目14番20号
代表者	代表取締役 岩倉 香織
事業内容	通所介護事業（定員30名）、訪問介護事業、サービス付き高齢者向け住宅事業（40室）、居宅介護支援事業 ※訪問看護事業は休止中
関連会社	株式会社カオリ、有限会社サラン商会、岩倉米穀店、岩倉不動産

当社が導入している介護ロボット

※参考資料

商 品 名 ライフリズムナビ+ D r .

商品内容 S a a s 型高齢者施設見守りシステム

開発会社 エコナビスタ株式会社
東京都千代田区紀尾井町 3 - 1 K K D ビル 6 F

導 入 日 令和元年 1 2 月

補 助 金 平成 3 0 年度ものづくり・商業・サービス生産性向上促進
補助金を活用

備 考 介護記録ソフトファーストケアと連動
情報共有として C h a t W o r k を活用
日勤帯はインカムを活用

当社が導入している介護ロボット

※参考資料

限られた時間での発表となりますので、運用面を中心にご説明いたします。
当社が導入している介護ロボット(見守り機器)がどのような機能を有しているのかは、メーカーのホームページや発表者が取材を受けてYoutube動画が作成され、拙い説明しております。
お手数ですが事前にそちらをご確認いただけると幸いです。

ライムリズムナビ + Dr. ホームページ

<https://info.liferhythmnavi.com/>

ライフリズムナビ Youtube

<https://www.youtube.com/channel/UC4rdqfV-nZTtvOisoPft5Ug>

ライフリズムナビ+Dr.

※参考資料

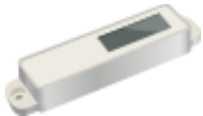
使用機器



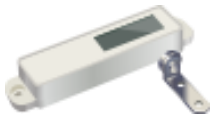
- ① ライフリズムナビ
SleepSensor/
LRNゲートウェイ



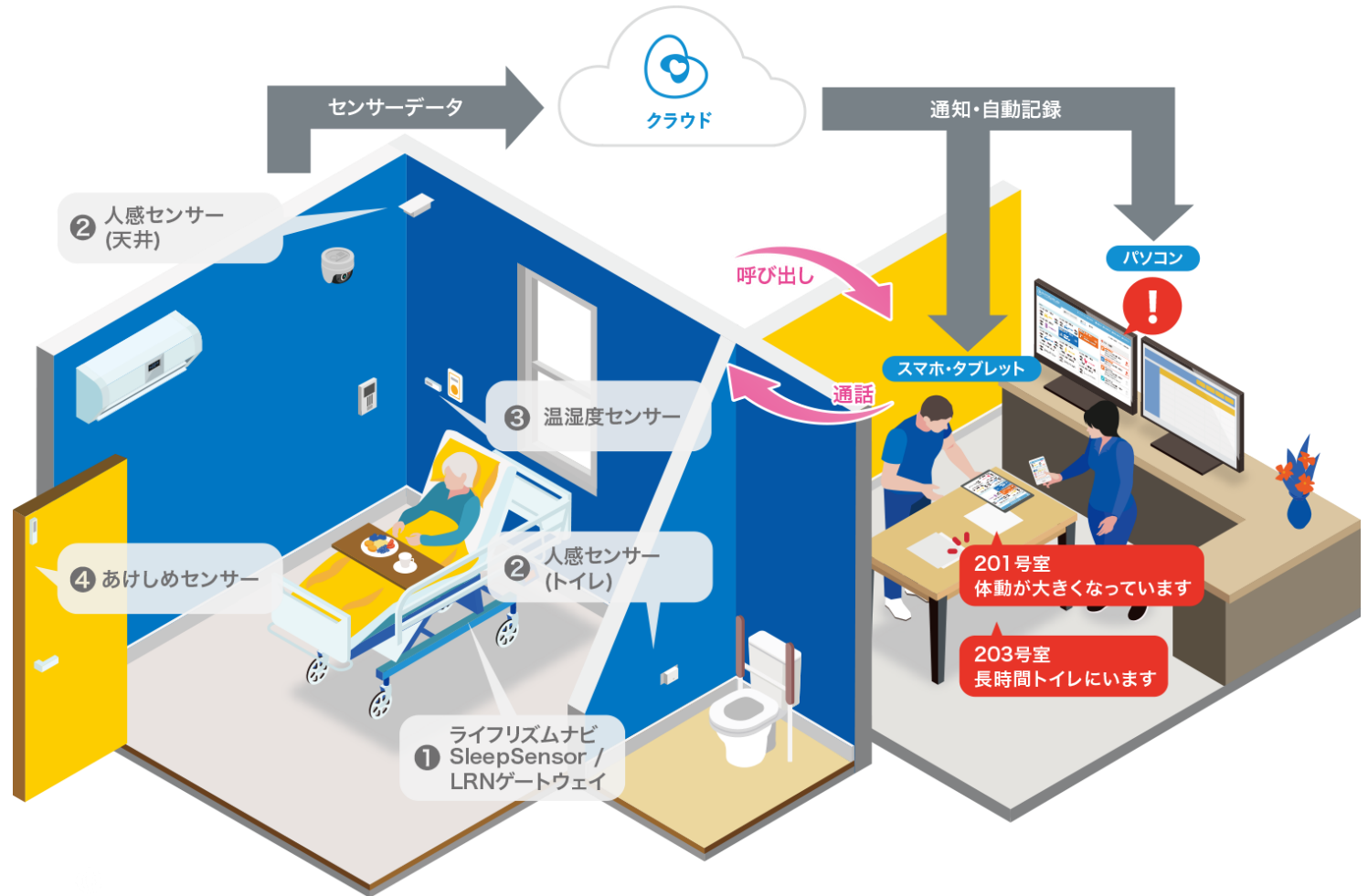
- ② 人感センサー



- ③ 温湿度センサー



- ④ あけしめセンサー



コロナ感染症が発生し、IoT機器の便利さを痛感

令和4年7月15日に入居者(利用者)様の新型コロナウイルスに罹患している事案が発生しました。

同日に複数名の罹患を確認した時点で、「いつ」「どこで」「誰」が感染してもおかしくない状況に陥りました。

当住宅では既に介護ロボットを導入し、活用していたことにより、「かけつけてみないとわからない」から「ある程度の健康状態を把握できること」「状況の変化をみてかけつけること」が実現できることで、介護業務の効率化と感染対策の維持を図ることができました。

これらのことは対応する職員の肉体的や精神的な負荷の軽減にもつながりました。

通常時におけるIoT機器導入における業務内容の変化

※参考資料

1 夜勤職員の負担軽減

2 居室内の見守り・訪室回数の減少

3 生活サイクルの把握により、効率のよい住宅サービス提供の強化

先回り介護の実践

4 入居者の転倒回数の減少

5 認知症状や難病患者、中重度化している入居希望者の受け入れ対応を実施

末期がん、パーキンソン病、
IgA腎症、鼻腔Malgリンパ腫など

6 情報共有の円滑化

かかりつけ医やケアマネジャー、
多職種や家族などとの連携強化

通常時におけるIoT機器を導入してのメリット

※参考資料

①巡視タイミングの変化



非効率な訪室を減らすことが可能となり、夜勤職員などの負担軽減につながる

②ケアタイミングの変化



生活サイクルを把握することで、排泄や起床就寝ケアに入るタイミングがUPした

③健康管理・睡眠改善の変化



睡眠の把握から生活サイクルが安定し、健康維持につながる



④変化の結果

職員の負担軽減
サービスの質の向上

生活援助中心の軽度者しか対応していなかった事業所がターミナルケアを行える事業所へと変化していった

感染時におけるIoT機器利活用による業務のメリット

1 夜勤職員の肉体的・精神的な負担の軽減

臨時で緊急採用した派遣職員が
夜勤業務を行うことができた

2 不必要な居室内の見守り・訪室回数の減少

生体反応の確認から安否確認の
訪室回数を減らすことが可能

3 生活サイクルの把握により、必要に応じた訪室対応への切り替え

排泄時間や日常の行動パターンの
予測から先回り介護の実践

4 効率のよい住宅サービス提供を行うことにより、感染対策の強化

排泄時の汚染を防ぐなど先回り
介護の実践から訪室を減らす

5 認知症症状の罹患者の徘徊防止

ドアの開け閉めセンサーの活用で
レッドゾーンに入らせない

6 罹患者の健康情報を中心とした情報共有の円滑化

かかりつけ医やケアマネジャー、
多職種や家族などとの連携強化

感染時におけるIoT機器利活用による業務のメリット

1

夜勤職員の肉体的・精神的な負担の軽減

- タブレット端末を通し、生体反応(呼吸数・心拍数など)が把握できることから不安感が減少 ex.急変をしていないか? 何かしら問題がないか?
- 罹患者の居室へ必要以上に訪室しなくても済むために感染リスクを抑えることが可能 ex.接触回数の減少 飛沫の防止
- 緊急採用した派遣職員でも全室の状況が分かることから不安なく業務に従事できた ex.職員の確保 シフト調整(連続勤務の削減)

感染時におけるIoT機器利活用による業務のメリット

2

不必要な居内の見守り・訪室回数の減少

●積極的な各種アラート機能の活用により、必要に応じた訪室対応へ切り替え

- ・トイレアラート機能(排泄ケアのため訪室)
- ・長時間トイレアラート機能(安否確認のため訪室)
- ・心拍数上昇、心拍数低下、センサー反応なしアラート機能(安否確認のため訪室)
- ・離床アラート機能(転倒防止確認・介助対応のため訪室)
- ・高温、低温、湿度低下アラート機能(温度調整などのため訪室)など

感染時におけるIoT機器利活用による業務のメリット

3

生活サイクルの把握から、必要に応じた訪室対応への切り替え

- 当事業所にて把握している排泄時間の間隔や日常の行動パターンより予測して、必要に応じた声掛け対応を行う
 - ・離床がない ex.倦怠感？ 意欲低下？ 認知症の進行？
 - ・トイレの使用間隔にズレあり ex.汚染防止？ 脱水？ 便秘？ 下痢？
- 日常と異なることがあった場合は、医師や看護師、ケアマネジャーなどの他職種と情報を共有して、必要なサービス調整を行う
- 日勤帯に事前準備できることは夜勤職員の負担とならないように予め調整しておく

感染時におけるIoT機器利活用による業務のメリット

4

効率のよい住宅サービス提供を行うことにより、感染対策の強化

●繁忙時間を少なくすることで感染対策を疎かにしない

- ・起床介助や就寝介助、排泄介助など同じ時間帯に集中する介護業務の優先度合いをタブレット表示を確認しながら効率よく対応していく

●丁寧に焦らずに一つ一つの業務を遂行できる

- ・一つ一つの作業手順を丁寧に行うことで感染対策マニュアルを徹底し、ゾーニング対応を厳格に行う

感染時におけるIoT機器利活用による業務のメリット

5

認知症症状の罹患者の徘徊防止

● ドア開け閉めセンサーの活用で罹患者(疑いも含む)の徘徊防止 (ゾーニング確保)

- ・ コロナ感染が終息するまでの間、全入居者を居室対応としたが、理解できずに食事の時間帯などに出て来られる方が数名いた
- ・ 居室内に張り紙をしても効果がないため、アラート表示にて毎回対応している
- ・ 都度出て来られるものの、速やかに帰室いただくことで対象者は罹患しなかった

感染時におけるIoT機器利活用による業務のメリット

6

罹患者(入居者)の健康情報を中心とした情報共有の円滑化

●生活状況が把握できるため、厚生センターを中心とした他事業所への連携がスムーズにできた

- ・罹患者のうち半数以上は軽症のため、罹患前と罹患中にて生活の変化は余りないため、明確に変わりなしと回答している
- ・罹患中に排泄介助や食事介助などが必要となった対象者は、ケアマネジャーと協議をして福祉用具の追加やサービス提供内容を変更し、手厚く対応することとした
- ・見守り機器のデータを活用しながら罹患者の既往歴による課題点を抽出し、罹患者の状況を確認し、必要に応じて厚生センターを通じて再診要請をし、罹患者の早期回復につながった

Chapter

03

コロナ感染症が発生し、IoT機器の便利さを痛感

高齢者は自分自身の健康状態を明確に伝えることが困難です。見守り機器の活用次第によっては、罹患者を含む健康状態や生活サイクルを把握できることが可能です。

そして知り得た情報を職員がどのように活用するかによって高齢者の生活が大いに向上します。

当事業所は見守り機器を住宅職員の一員であると考えており、常にデータに変化がないか確認をしています。

今回はその活用例などを発表させていただきます。

事例 1 コロナ罹患発生

発症当時のフロー



事例 2 救急搬送案件発生

発生当時のフロー

1 状況発信／夜勤職員よりChatWorkを通じて、夜間帯の変化を把握

既往歴に胆のう炎があり、過去に
2回同じ症状にて救急搬送歴あり

2 確認作業／ライフリズムナビにてリアルタイム状況を確認するよう指示

呼吸や心拍、体動などを
確認するよう指示

3 概 況／対象者は嘔吐、右下腹部痛が発生し、その後発熱した

夜勤看護職員へ抗原検査を
指示し、陰性であることを確認

4 連携対応／胆のう炎である可能性を示唆し、救急搬送・入院手続き

厚生センターへ具体的に状況を
連絡し、救急要請を依頼する

終わりに

コロナの第8波の入り口に入っているのではないかとされている今日、職員と利用者の濃厚接触機会が多くなる介護業界は感染リスクが非常に心配されるところです。

衛生管理をどれだけ徹底していてもコロナを防ぐことが難しく、人員不足に輪をかけて稼働が増えていくことから、介護人材の精神的疲労や体力減退が増大しているのが現状です。

居室内での入居者の生活状況や居室の室温・湿度などの環境を遠隔で把握できるIoT導入は介護事業所で働く職員の稼働減につながります。

そして入居者に接近しての安否確認(呼吸の有無や睡眠の状態など)の頻度も減らせるので、感染リスクの低減に寄与できるのではないかと考えます。

●これからの在宅は・・・ここまで来ている

- ・急性期病院での在院日数の短縮化
- ・医療ニーズの高い状態にもかかわらず退院する療養者が増えてきている
- ・在宅医療機器の革新により、今迄は入院で対応するしか出来なかった治療が在宅でも可能となった
- ・国は「在宅死比率アップ」を目標としていることから、在宅ターミナルケアはこれから増えていく
- ・コロナによる面会謝絶により、無理をしてでも病院を退院したい人が増えている
- ・在宅で活用できる介護ロボットが増えてきている

●介護業界もいよいよIoT・ICTシステムを導入していく時代になってきた。
導入したらどうなっていくのだろうか・・・

- ・ 職員の業務負担が軽減（業務効率化・生産性の向上）
- ・ ケアの質の向上と危険予測の強化
- ・ 若手職員の定着率アップ
- ・ スタッフ間のコミュニケーションの円滑化
- ・ 医療職や介護支援専門員など多職種との連携強化

終わりに

私の考えている介護ロボットの導入と活用について

介護ロボット(見守り機器)は高齢者の状態を常時把握して、アラートの発生毎に対応するために活用するものではない

- 現状におけるケアのプロセスや内容を検証できるツール
- 人間の尊厳を護るツール
- 高齢者の自立支援とQOLの向上を目指すツール

シナジー
効果

- 介護ロボットは生活支援のための福祉用具の位置づけであると考えてる

終わりに

- システムをどれだけ入れても、進化しても最後は『人』
- 本当に残したいのは『人』の手による介護
- 限られた『人』を有効に、効率よく活用していくためには
IoT・ICTシステムを導入していくべき
- コロナ禍において見守り機器は有効なツールであるので
もっと導入しやすいように制度を構築してもらいたい

ご清聴ありがとうございました。

ご質問などありましたら下記メールアドレスまでお問い合わせください。

矢代 虎太郎（やしろ こたろう）

メール：kotaro@raimucare-t.jp

令和4年度 介護ロボット等活用ミーティング

～ 介護機器等の安心・安全な利用を考えよう ～

「福祉用具の活用と ヒヤリハット事例について」

2022.11.15 @online

きぬた

社会福祉法人 友愛十字会 砧ホーム



共に生きる

社会福祉法人 友愛十字会



施設長 **鈴木 健太**

自己紹介

鈴木健太



淑徳大学 社会福祉学部 社会福祉学科卒

○社会福祉法人友愛十字会 砧ホーム 施設長

《 ・ 看護師 ・ 福祉用具専門相談員 》

- 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
 - ・ ロボット・ICT推進委員会 幹事
- 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 高齢者福祉施設協議会
 - ・ 常任委員 ・ デジタル推進委員長
- 公益財団法人 テクノエイド協会
 - ・ 「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」
モニター調査検討委員会 委員
- 公益財団法人 東京都福祉保健財団
 - ・ 次世代介護機器選定委員会 委員

自己紹介

現役の看護師です。



本日のお話の内容

1. 役に立つ！介護ロボットの効果

- 見守り支援機器 と 移乗介助（装着型）の事例

2. 介護ロボットのヒヤリハット

- 見守り支援機器 と 移乗介助（装着型）の事例

3. ヒヤリハットの克服の仕方

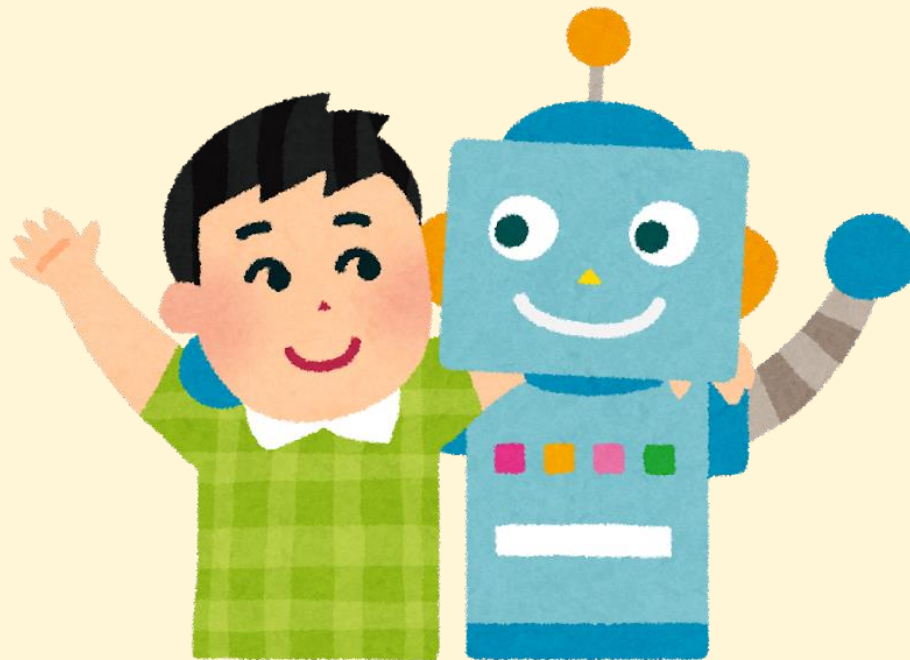
- 運用上のルールの更新が鍵！

4. 介護機器等の使いやすさの高め方

- 共用上のルールの更新が鍵！

1.役に立つ！介護ロボットの効果

- 見守り支援機器 と 移乗介助（装着型）の事例



ロボット技術の介護利用における重点分野（概要）

開発重点分野

○経済産業省と厚生労働省において、重点的に開発支援する分野を特定（平成25年度から開発支援）
○平成29年10月に重点分野を改訂し、赤字箇所を追加

移乗支援

○装着



・ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器

○非装着



・ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器

移動支援

○屋外



・高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器

○屋内



・高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器

○装着



・高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器

排泄支援

○排泄物処理



・排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調節可能なトイレ

○トイレ誘導



・ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器

○動作支援



・ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器

見守り・コミュニケーション

○施設



・介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム

○在宅



・在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム

○生活支援



・高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器

入浴支援



・ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器

介護業務支援



・ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器

【出典】厚生労働省HPより（抜粋）

見守り支援ロボット - 設備環境

見守属性

安全系

バイタル系

メリット

事故防止
自立支援

自立支援
(事故防止)

通信環境

ナースコール経由

Wi-Fi経由(画像)

Wi-Fi経由

LAN経由

【注意】 職員の移動範囲をカバーする電波強度が必要！

見守り支援機器の導入状況 57.1%

（出典）「デジタル機器（介護ロボット・ICT機器）等の導入及び活用に関する実態調査」
令和3年9月～10月の調査。都内の特別養護老人ホーム 全218施設からの回答。
社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 デジタル推進委員会 資料 より

タイプ別 導入・活用 状況

1 荷重変位測定タイプ



33.2%

👑 95.2%

2 バイタル測定タイプ



👑 33.3%

90.3%

3 カメラタイプ



24.9%

82.6%

【画像】 各社商品カタログより

見守り支援ロボット - カメラタイプ



端末

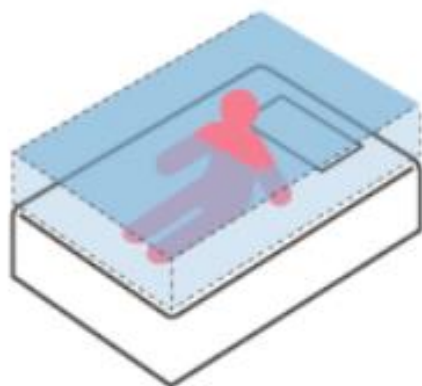


器体

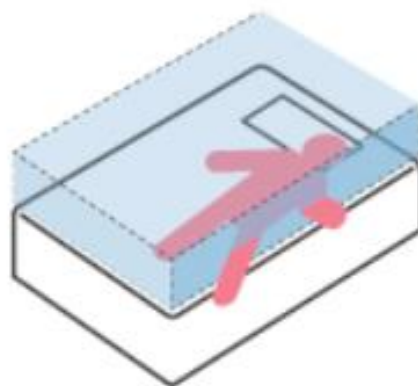


設置例

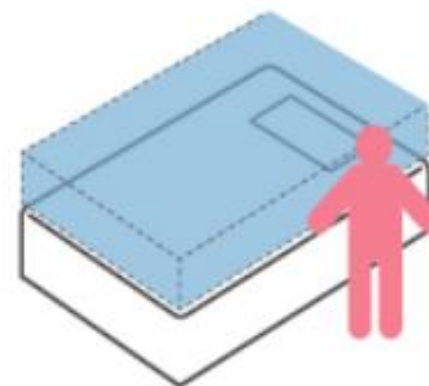
検知の種類



① 起き上がり検知



② はみ出し検知



③ 離床検知

【出典】 キング通信工業株式会社 HPより

【写真】 砧ホーム

シルエット見守りセンサの履歴機能

見守り支援ロボット

カメラタイプ



事故の見える化

☆ 事故の本質的な要因にせまる
核心的な再発予防策の立案が可能！

⇒ 事故の再発を防止

⇒ 生活の質の向上

⇒ ケアの生産性の向上



ロボット技術の介護利用における重点分野（概要）

開発重点分野

○経済産業省と厚生労働省において、重点的に開発支援する分野を特定（平成25年度から開発支援）
○平成29年10月に重点分野を改訂し、赤字箇所を追加

移乗支援

○装着



・ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器

○非装着



・ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器

移動支援

○屋外



・高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器

○屋内



・高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器

○装着



・高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器

排泄支援

○排泄物処理



・排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調節可能なトイレ

○トイレ誘導



・ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器

○動作支援



・ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器

見守り・コミュニケーション

○施設



・介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム

○在宅



・在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム

○生活支援



・高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器

入浴支援



・ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器

介護業務支援



・ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器

【出典】厚生労働省HPより（抜粋）

移乗支援ロボット (装着型)



移乗介助

排泄介助 入浴介助

朝のゴミ出し



床のモップ掛け



【写真】 砧ホーム

Copyright © 2022 Kenta Suzuki

使い方の工夫と効果の出し方

Point!

活用のコツ



直接的効果
(負担軽減)



副次的効果
(共有・発信)

【写真】 砧ホーム

2.介護ロボットのヒヤリハット

- 見守り支援機器 と 移乗介助（装着型）の事例



介護ロボット等の事故・ヒヤリハット事例集



(1)



(2)



(3)

- 【出典】 (1) 厚生労働省/公益財団法人テクノエイド協会 HPより
(2) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) HPより
(3) 株式会社三菱総合研究所 HPより

介護ロボット等の事故・ヒヤリハット事例集



(1)



(2)



(3)

- 【出典】 (1) 福祉用具ヒヤリハット事例集2019、厚生労働省
 (2) 身・守りハンドブック2020、独立行政法人製品評価技術基盤機構
 (3) 介護ロボットを安全に使うためポイント集、株式会社三菱総合研究所 (2021)

見守り支援ロボット - カメラタイプ

1

機器の電源が切れており、入居者の行動を把握できなかった



重点分野 見守り（施設）

事例発生場所 居室

事例分類 失報

想定される原因

機器の通知のみを確認しており、機器自体が動作しているかどうかの確認行為が手順に組み込まれていなかった

対策例

【使用前確認】

毎日、職員の勤務開始時には電源の確認・作動確認を行うことをルール化するとよいでしょう

【業務フローチェック】

居室内で普段と違う事が行なわれた際には終了後に作動確認を行うといったルールを、事前に整理しておきましょう

解説
(補足)

普段、始業点検を行っている場合でも、イレギュラーが生じた際には、確認を忘れてしまうかもしれません
落雷などにより停電が起こる可能性があります
停電時の対応について、見守り機器以外も見直してみましょう

【出典】「介護ロボットを安全に使うためポイント集」、株式会社三菱総合研究所（令和3年3月）

見守り支援ロボット - カメラタイプ

5

見守り機器の通知で訪室したが、バランスを崩し転倒していた



重点分野 見守り（施設）

事例発生場所 居室

事例分類 転倒・転落

想定される原因

いつアラートが発生してもすぐに職員が駆け付けられるような体制になっていなかった

対策例

【使用方法の検討】

ベッドから起き上がってから離床するまでの時間が短い利用者については、センサーの通知タイミングや居室の配置を変える等の方法を検討してみましょう

解説
(補足)

見守り機器の利用により、すべてのヒヤリハット・事故を防げるわけではありませんが、見守り機器を理解して正しく使用することで、事故の早期発見・未然防止につながる場合があります
利用者の状態に合った機器の選定等の対応を行うと、更に事故は減少していくと思われます

【出典】「介護ロボットを安全に使うためポイント集」、株式会社三菱総合研究所（令和3年3月）

移乗支援ロボット（装着型）

9

ポケットに PHS を入れていたが、機器のバンドで固定されていたため、ズボンのポケットから PHS を取り出せず、着信時に対応できなかった



重点分野 移乗介助(装着型)

事例発生場所 廊下

事例分類 失報

想定される原因

当該機器に慣れている職員は、PHS を首にかけ、ポロシャツの中に入れていたが、それが職員全員に周知されていなかった

対策例

【使用方法の検討】

ポケットから PHS 等持ち歩く機器が取り出せない等が無いよう、装着時に PHS が使えるかチェックしましょう
(例：PHS のストラップを首かけ、ポロシャツの中に入れる等の対応を行う)

解説
(補足)

移乗介助機器は体に装着するタイプの機器であるため、バンド等で固定されます
ポケットから PHS 等持ち歩く機器が取り出せない等が無いよう、機器導入時には事前にメンバーで話し合い、どのような使い方をするか（PHS をどのように持ち歩くか）決めておく和良好的

【出典】「介護ロボットを安全に使うためポイント集」、株式会社三菱総合研究所（令和3年3月）

3.ヒヤリハットの克服の仕方

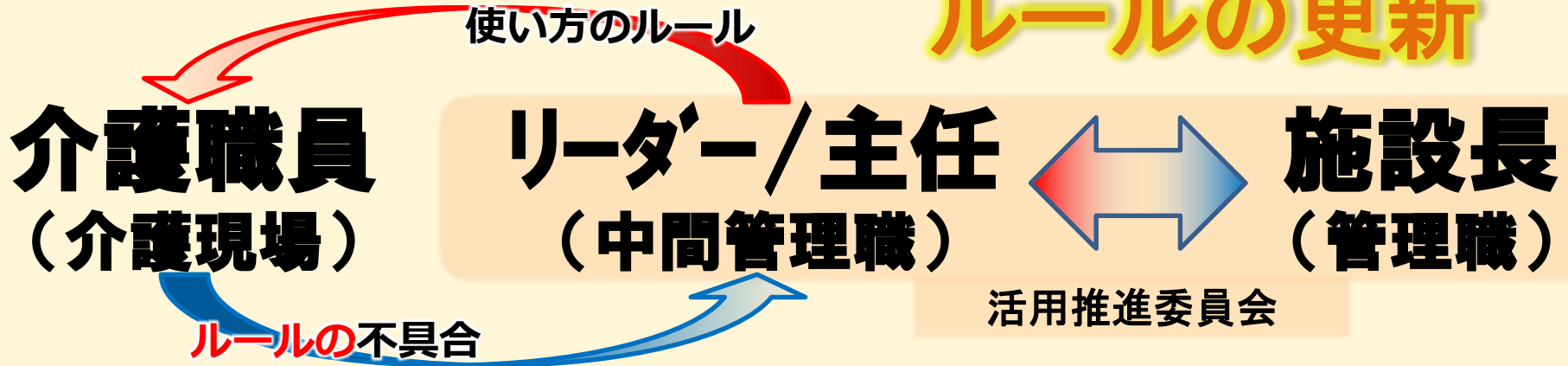
- 運用上のルールを更新が鍵！



施設における介護ロボット等の活用

Point!

ルールの更新



- 機器を**活用**する
- **報告**する
 - ・ 使いにくさ
 - ・ 効果
 - 職員負担
 - 利用者変化
- **率先**して機器を
活用する
- 活用ルールの**更新**
 - ・ **運用上のルール**
 - ・ 共用上のルール
- 報告を**集約**する
 - ・ 頻回のアンケート
ヒアリング
- 活用**環境**の整備
 - ・ 活用目的の明確化
 - ・ 活用ムードの創出
- 進捗状況の**把握**と
内外への情報**発信**
- 効果や変化の**評価**
と**フィードバック**

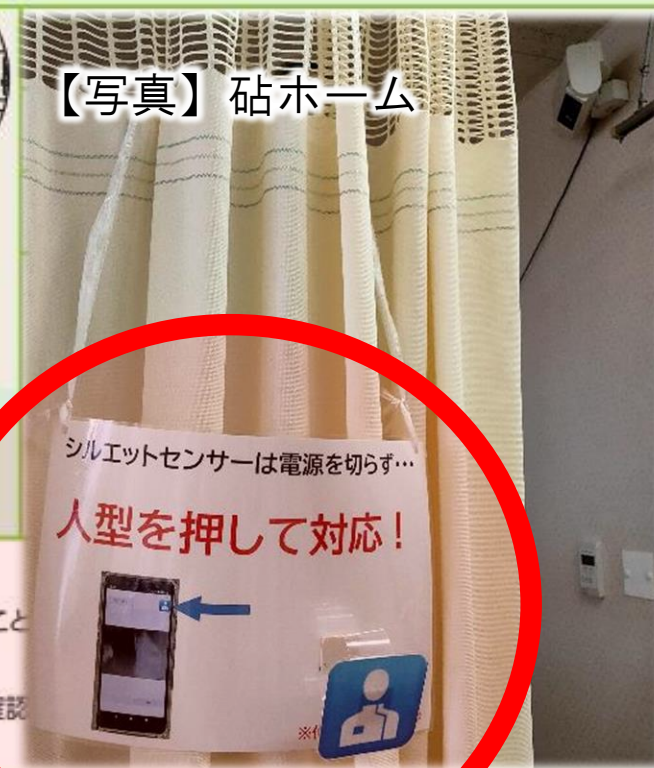
見守り支援ロボット - カメラタイプ

1

機器の電源が切れており、入居者の行動を把握できなかった



【写真】砧ホーム



対策例

【使用前確認】

毎日、職員の勤務開始時には電源の確認・作動確認を行うこと

【業務フローチェック】

居室内で普段と違う事が行なわれた際には終了後に作動確認

解説
(補足)

普段、始業点検を行っている場合でも、イレギュラーが生じた際には、確認を忘れてしまうかもしれません
落雷などにより停電が起こる可能性があります
停電時の対応について、見守り機器以外も見直してみましょう

【出典】「介護ロボットを安全に使うためポイント集」、株式会社三菱総合研究所（令和3年3月）

見守り支援ロボット - カメラタイプ

5

見守り機器の通知で訪室したが、バランスを崩し転倒していた

【表】砦ホーム



対策例

【使用方法の検討】

ベッドから起き上がってから離床するまでの時間が短い等の配置を変える等の方法を検討してみましょう

解説
(補足)

見守り機器の利用により、すべてのヒヤリハット・事故を防げるわけではありませんが、見守り機器を理解して正しく使用することで、事故の早期発見・未然防止につながることがあります
利用者の状態に合った機器の選定等の対応を行うと、更に事故は減少していくと思われます

ベッドセンサ使用者 設定一覧表

No.	氏名	部屋番号	設定	感度
101		212-3	起き上がり	3
102		212-3	起き上がり	3
103				
104		211-3	起き上がり	3
105		210-3	起き上がり	3
106	SS用			
107		213-1	離床	3
108		211-1	起き上がり	3
109			起き上がり	3
110		208-2	動き出し	2
91		211-2	端座位	3
92		205-1	動き出し	3
93		213-2	端座位	3
94		207-1	端座位	3

【出典】「介護ロボットを安全に使うためポイント集」、株式会社三菱総合研究所（令和3年3月）

移乗支援ロボット（装着型）

9

ポケットに PHS を入れていたが、機器のバンドで固定されていたため、ズボンのポケットから PHS を取り出せず、着信時に対応できなかった



【写真】砧ホーム



対策例

【使用方法の検討】

ポケットから PHS 等持ち歩く機器が取り出せない等が無く（例：PHS のストラップを首かけ、ポロシャツの中に入

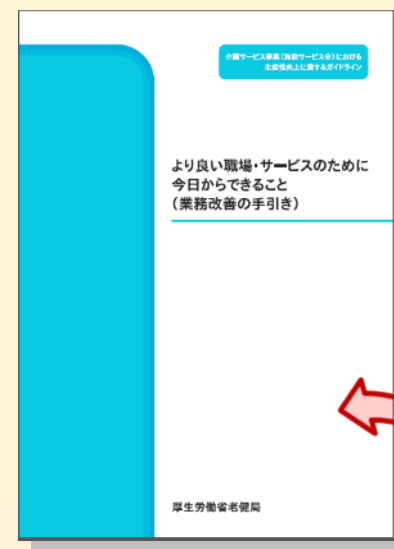
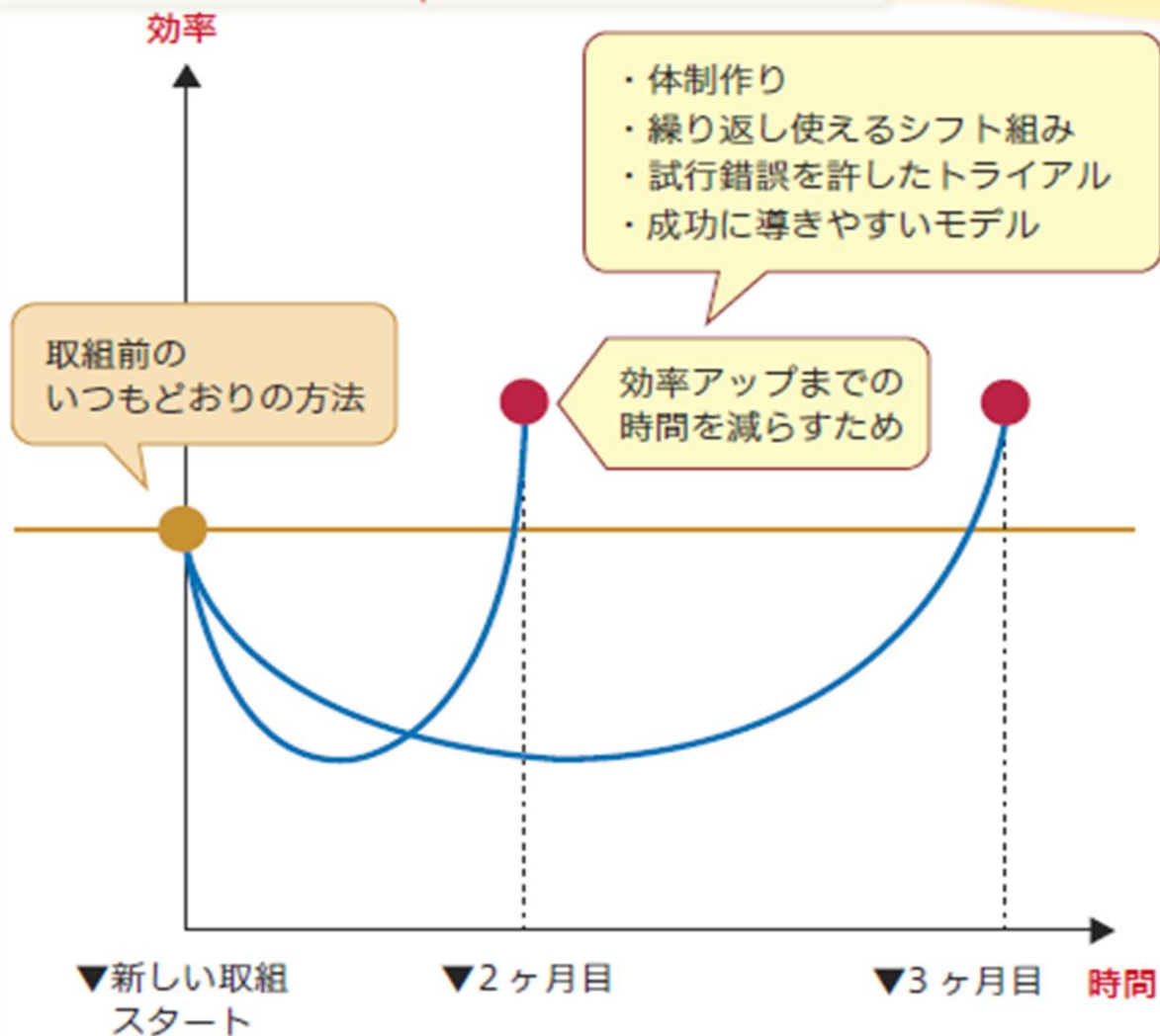
解説
(補足)

移乗介助機器は体に装着するタイプの機器であるため、バンド等で固定されます
ポケットから PHS 等持ち歩く機器が取り出せない等が無いよう、機器導入時には事前にメンバーで話し合い、
どのような使い方をするか（PHS をどのように持ち歩くか）決めておくとう良いでしょう

【出典】「介護ロボットを安全に使うためポイント集」、株式会社三菱総合研究所（令和3年3月）

U字の法則

一番大事な理解



【出典】「介護サービス事業（施設サービス分）における生産性向上に資するガイドラン」（厚生労働省HP）

4.介護機器等の使いやすさの高め方

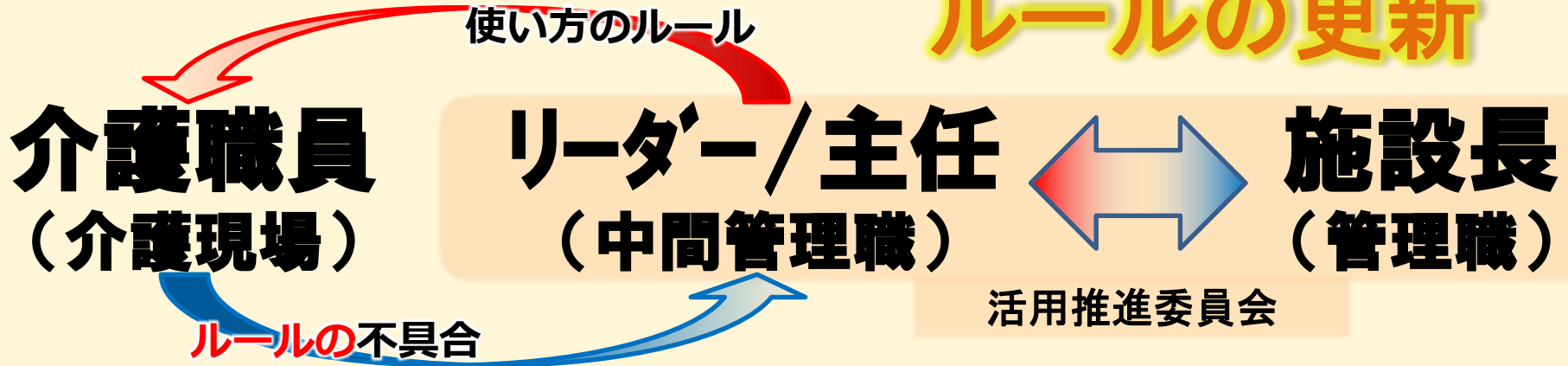
- 共用上のルールを更新が鍵！



施設における介護ロボット等の活用

Point!

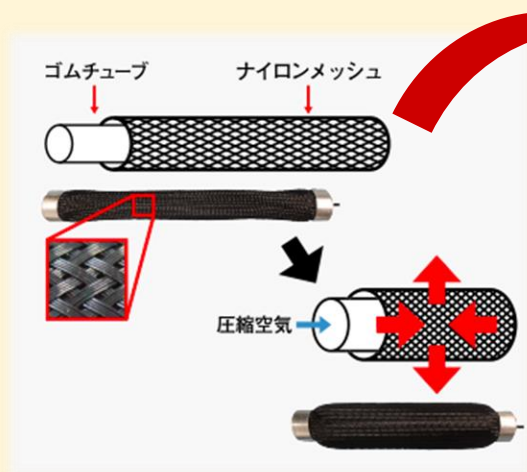
ルールの更新



- 機器を**活用**する
- **報告**する
 - ・ 使いにくさ
 - ・ 効果
 - 職員負担
 - 利用者変化
- **率先**して機器を
活用する
- 活用ルールの**更新**
 - ・ 運用上のルール
 - ・ **共用上のルール**
- 報告を**集約**する
 - ・ 頻回のアンケート
ヒアリング
- 活用**環境**の整備
 - ・ 活用目的の明確化
 - ・ 活用ムードの創出
- 進捗状況の**把握**と
内外への情報**発信**
- 効果や変化の**評価**
と**フィードバック**

機能の本質に辿り着く前の葛藤

テクノロジー



【出典】株式会社 イノフィス
HPより

・滑らかでイメージ
しやすい補助力

UX

介護現場の反応

- ・装着に時間が掛かる
- ・使いたい時にない
- ・エアポンプが落ちる
- ・ポケットが使えない
- ・汚れが気になる

UIの壁？



共用上のルールが活用を促進させる

使い方のルール

- ・使用後はベルトを緩める
- ・動線を考えて配置する
- ・エアポンプに輪ゴムを巻く
- ・ウエストポーチを準備する
- ・使用後に消毒、消臭する



- ・滑らかでイメージしやすい補助力

UX



介護現場の反応

- ・装着に時間が掛かる
- ・使いたい時にない
- ・エアポンプが落ちる
- ・ポケットが使えない
- ・汚れが気になる

UIの壁？



配置場所と方法の工夫

ハンガーラック

点滴棒



【写真】 砧木一ム

介護機器等の 安心・安全な利用を 考えましょう！

YouTube ▶

介護ロボットの活用のコツ！



〒157-0073 東京都世田谷区砧3-9-11
TEL 03-3416-3164 FAX 03-3416-3494